

滋賀県地震被害想定(概要版)平成26年3月<抜粋>

訂正版

滋賀県地震被害想定 (概要版)

平成26年3月

滋 賀 県

【目次】

1.はじめに.....	- 1 -	南海トラフ巨大地震(基本ケース)による主要被害状況.....	- 27 -
1)地震被害想定目的.....	- 1 -	南海トラフ巨大地震(陸側ケース)による主要被害状況.....	- 29 -
2)被害想定フロー.....	- 1 -	4.地震別の災害シナリオ.....	- 31 -
3)留意事項.....	- 1 -	1)目的および構成.....	- 31 -
2.想定地震の設定について.....	- 2 -	2)災害シナリオの前提となる被害概要.....	- 31 -
1)内陸活断層による地震.....	- 2 -	琵琶湖西岸断層帯地震の災害シナリオ.....	- 33 -
2)南海トラフ巨大地震.....	- 2 -	花折断層帯地震の災害シナリオ.....	- 40 -
3.被害想定について.....	- 3 -	木津川断層帯地震の災害シナリオ.....	- 47 -
1)主要被害想定項目.....	- 3 -	鈴鹿西縁断層帯地震の災害シナリオ.....	- 54 -
内陸活断層地震による主要被害数量の一覧.....	- 5 -	柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯地震の災害シナリオ.....	- 61 -
南海トラフ巨大地震による主要被害数量の一覧.....	- 6 -	南海トラフ巨大地震(基本ケース)の災害シナリオ.....	- 68 -
琵琶湖西岸断層帯地震による主要被害状況.....	- 7 -	南海トラフ巨大地震(陸側ケース)の災害シナリオ.....	- 75 -
花折断層帯地震による主要被害状況.....	- 11 -	5.大規模地震対応における課題.....	- 82 -
木津川断層帯地震による主要被害状況.....	- 15 -	1)大規模地震対応における課題.....	- 82 -
鈴鹿西縁断層帯地震による主要被害状況.....	- 19 -	2)減災に向けての考え方(案).....	- 82 -
柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯地震による主要被害状況.....	- 23 -	3)防災対策の徹底による減災効果の試算.....	- 83 -

1.はじめに

1) 地震被害想定目的

滋賀県では、平成 15・16 年に、当時高い発生確率が示された琵琶湖西岸断層帯等による地震について被害想定を行い、地震防災対策の基礎資料としてきた。

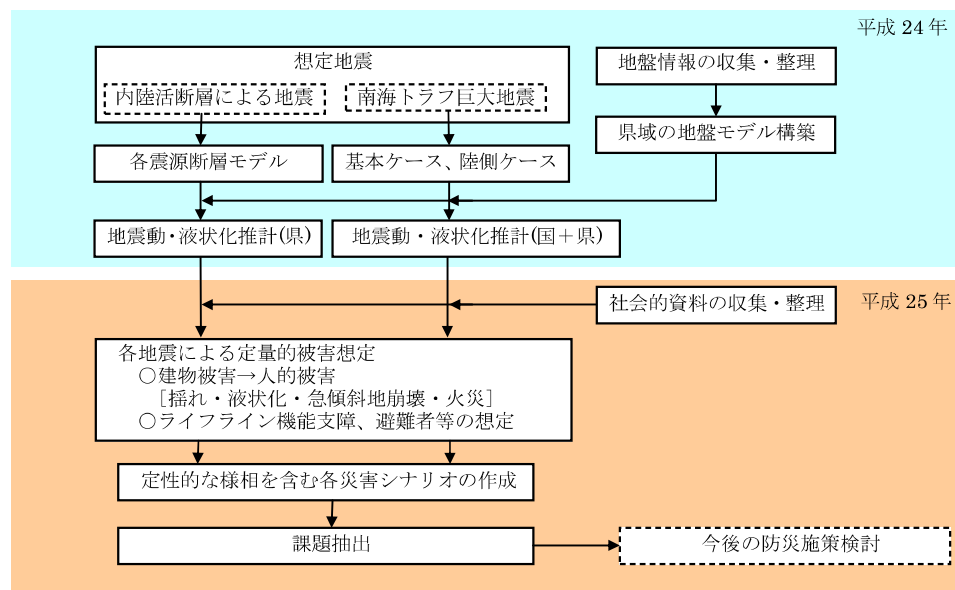
東日本大震災の教訓や社会構造の変化を踏まえて「災害対策基本法」が大幅に改正されたところであり、また、今世紀前半にもその発生が懸念されている南海トラフ地震についても対策の検討が急務となっている。

滋賀県域での地震防災対策の具体的再検討にあたり、前回検討以降の科学的知見や社会状況の変化を反映して被害想定を見直すこととした。

今回の被害想定結果等を踏まえ、国・市町・関係機関と協力して、各種減災対策、広域連携を含む応急活動体制の整備を推進していくものとする。

2) 被害想定フロー

平成 24 年度から、県域における想定地震の地震動等を推計し、これに基づき、建物・人的被害、ライフライン・交通施設等の機能支障等を想定した。想定フローは以下のとおり。



3) 留意事項

地震被害想定結果の利活用に際しては、以下の点に留意が必要である。

★ 「起こりうる最大クラスの地震」を想定したものであること

本検討は、防災対策を検討する上で、備えるべき「起こりうる最大クラスの地震」を想定するものであり、県域に推定されている活断層が一連区間で同時に活動したものとして、震度分布・液状化可能性等の分布を推計している。内閣府がマグニチュード 9 クラスのものとして震源設定した「南海トラフ巨大地震」についても同様である。

それぞれの想定地震は、対象とした活断層帯の特徴を踏まえて地震動等を推計したものであるが、実際に起こる地震は想定と異なることも十分に考えられる。また対象とした活断層以外の地震発生の可能性もある。

震度分布等の推計手法については、「滋賀県地震被害想定調査中間報告（震度分布等の推計結果）」について <http://www.pref.shiga.lg.jp/c/shobo/jishinbousai/20131010.html> を参照されたい。

★ 「起こりうる被害」を想定したものであること

本検討では、県・市町域レベルでの被害規模を想定することを主眼とし、過去の地震における被害結果を基に提案されている統計的な手法を用いて、被害を想定している。

水道や電力供給施設等のライフラインの被害については、主として、阪神・淡路大震災における各地の震度と被害状況を基にした関係式を使用しており、個別施設の耐震性能、非常用電源設備、配水・配電ルート等、また、復旧体制の充実等の効果については考慮していない。

東日本大震災における震度別の被害率等に基づく道路・鉄道等の交通施設についても同様である。

本検討は、防災体制を検討してゆく上で、備えるべき「起こりうる被害」を想定するものであり、個々の施設の耐震性等を検証するための詳細な調査ではない。

2.想定地震の設定について

1)内陸活断層による地震

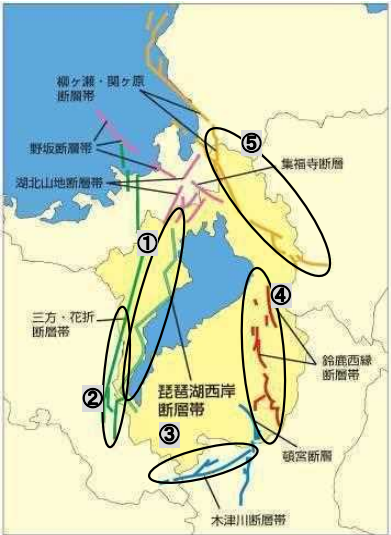


図 1 想定震源断層

今回の地震被害想定においては、もしその活動があった場合に、滋賀県域で甚大な被害が想定されるものとして、5つの活断層(帯)を選定して検討対象とした。(図1、表1)

活動領域については、国の地震調査研究推進本部が公表している長期評価等にかかわらず、滋賀県域への最大クラスの影響を念頭に連動を仮定したものである。

これらの震源断層毎に各2ケースの破壊開始点を仮定した断層モデルを設定し、推計した震度分布等を用いて、被害想定を実施した。

なお、地下深くの断層構造は明らかにされているとは言えず、あくまで現時点での調査結果に基づく推定である。また、その存在が確認されていないものも含め、これら以外の活断層による地震発生の可能性も十分にある。

表 1 設定した内陸活断層地震（5つの断層×2ケース）

番号	想定震源断層(帯)	地震の規模(M)	破壊開始点(震源)の位置
①	琵琶湖西岸断層帯	7.8	case1: 北部からの断層破壊を仮定
			case2: 南部からの断層破壊を仮定
②	花折断層帯	7.4	case2: 中部南側からの断層破壊を仮定
			case3: 南部からの断層破壊を仮定
③	本津川断層帯	7.3	case1: 東側からの断層破壊を仮定
			case3: 西側からの断層破壊を仮定
④	鈴鹿西縁断層帯	7.6	case1: 南側からの断層破壊を仮定
			case2: 北側からの断層破壊を仮定
⑤	柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯	7.8	case1: 中部北側からの断層破壊を仮定
			case2: 南部南側からの断層破壊を仮定

2)南海トラフ巨大地震

南海トラフのプレート境界を震源とする地震・津波は、100年から150年の周期で発生している。

内閣府から2012年に公表された南海トラフの巨大地震による震度分布・津波高等は、次に起こるものを予測したものではなく、東日本大震災を教訓とした地震・津波対策を検討する上で、「科学的知見に基づき発生しうる最大クラスの地震・津波」として推計されたものである。

内閣府では、過去に検討された震源域を、最新の知見によって想定できる範囲で拡大し、地震規模(マグニチュード)を大きく設定すると共に、過去の地震記録(古文書・津波堆積物調査)等に基づき強震動生成域を設定した「基本ケース」と、強震動生成域の位置をシフトした数ケースについて、地震動の推計がなされた。

本検討では、その内の「基本ケース」と、滋賀県域での震度が最も大きく推計されている「陸側ケース」を対象地震として設定し、震度分布等を検証して被害想定を実施した。

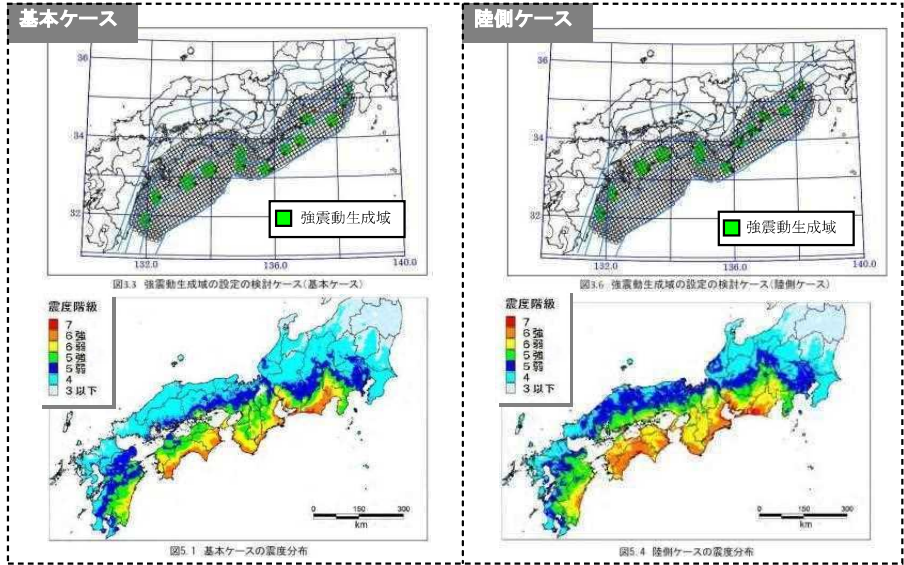


図2 南海トラフ巨大地震の震度分布（2012年 内閣府公表資料より抜粋、編集）

表 2 設定した想定南海トラフ巨大地震

ケース名	ケースの設定概要	地震の規模
基本ケース	従来に検討された震源域を最新の知見により可能性のある範囲で拡大し、地震規模を大きく設定	Mw(モーメントマグニチュード) 9.0
陸側ケース	基本ケースの強震動生成域を可能性のある範囲で陸側にシフトして設定	

3.被害想定について

1) 主要被害想定項目

本検討における、想定条件、主な被害想定項目および予測手法は以下のとおり。

① 想定条件（火災・人的被害）

時間帯によって人々の滞留特性は大きく異なるため、地震の発生時刻が変わると人的被害の発生する様相も変化する。そのため、本調査では、想定される被害が異なる3種類の特徴的な条件（季節・時刻）を表3のとおり設定した。火災については、各想定条件に応じた火気使用率等を設定した。

表3 想定条件

想定条件	状況・様相	想定される被害の程度		
		火災被害	自宅内被害	自宅外被害
①冬深夜 (深夜 12 時～早朝 5 時)	・ 県内の滞留人口が最も多い時間帯 ・ 多くの人が自宅で就寝中、外出中の人は少ない	小	大	小
②夏正午 (昼 12 時)	・ 県内・自宅内の滞留人口が少ない時間帯。 ・ 自宅外での被害が多くなる	中	小	大
③冬夕刻 (夕方 18 時)	・ 県内・自宅内の滞留人口は中位。帰宅中多数 ・ 火気使用率が高い	大	中	中

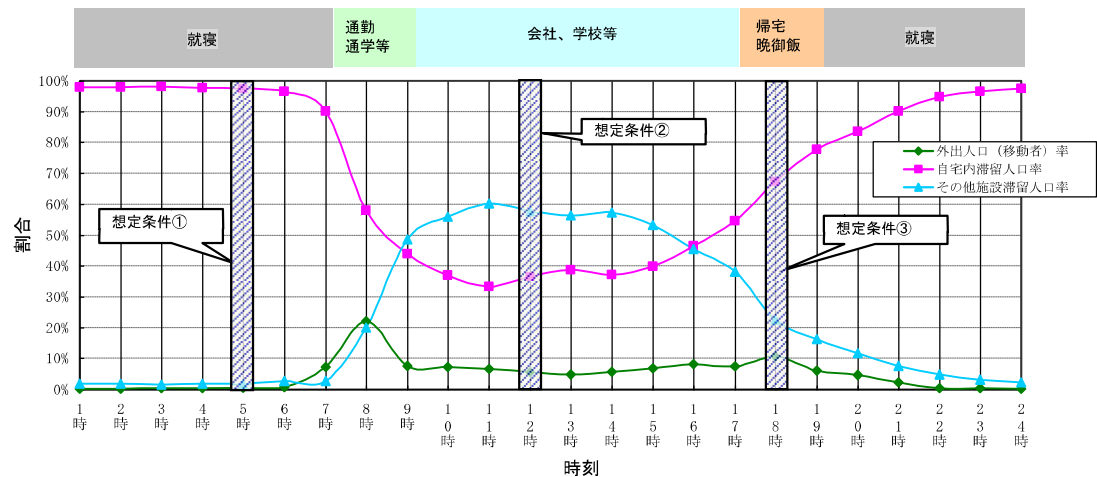


図3 想定条件と滋賀県時刻別滞留人口率

※滋賀県時刻別滞留人口率は、PT 調査、国勢調査より推定

② 主な被害想定項目および手法

主な被害想定項目とその手法は、表4のとおり。

なお、建物被害については、「揺れ→液状化→急傾斜地崩壊→火災焼失」の順に、被害量の重複が生じないよう各要因別の全壊被害等を控除して算定した。

表4 主な被害想定項目および手法の概要

項 目		手 法
建物被害	揺れによる被害	県域の各メッシュに、建築年次構造区分別の建物データを設定し、過去の地震災害時の状況から経験的に求められた関数（被害関数）を用いて算定。 ■被害棟数＝建物棟数×全壊率・半壊率
	液状化による被害	液状化指数(PL 値)、液状化面積率によって危険度を評価し、被害関数を用いて算定。 ■被害棟数＝建物棟数×メッシュ毎の PL 値による液状化面積率×液状化による建物の全壊率・大規模半壊率・半壊率
	急傾斜地崩壊による被害	地形の勾配、曲率からメッシュ毎の崩壊危険度を評価し、崩壊危険度の高い範囲に含まれる建物を急傾斜地崩壊による被害として算定。 ■崩壊危険度判定式＝0.075×勾配-8.9×平均曲率+0.0056×最大加速度-3.2 ■全壊棟数＝崩壊危険度が高い（判定点1以上）メッシュ内の建物棟数×全壊率
	地震火災による被害	被害関数から出火件数を推計し、初期消火可能件数や消防力等を踏まえて、炎上件数、残炎上件数を算定。また、延焼シミュレーションにより焼失棟数を算定。 ■出火件数＝建物棟数×出火率 ■炎上件数＝初期消火件数×初期消火成功率×出火件数 ■残炎上件数＝炎上出火件数-消火可能火災件数 ■延焼棟数＝延焼シミュレーション（風速（平均風速・最大風速 8m/s）、延焼限界距離等を考慮）
人的被害	建物倒壊等による死傷者	揺れによる全半壊棟数から被害関数を用いて算定。屋内落下物・家具転倒による死傷者もその内数として推計。 なお、液状化による建物被害について死傷者は発生しないものとした。
	急傾斜地崩壊による死傷者	急傾斜地崩壊による全壊棟数から被害関数を用いて算定。
	火災による死傷者	焼失棟数等から被害関数を用いて算定。
ライフライン等	電力供給施設	阪神・淡路大震災の調査実績に基づく震度毎の地震後経過期間の電力供給率曲線により電力供給状況を推計。 ただし、南海トラフ巨大地震については、東日本大震災における関東地方の市町村毎の停電発生率の分析報告における手法に準じて推計。
	上水道施設	阪神・淡路大震災の調査実績に基づく震度毎の地震後経過時間の水道供給率曲線により断水状況を推計。なお、市町別に管種・管径情報から、水道管の脆弱さを考慮した。 南海トラフ巨大地震については、上記に電力供給の影響を加味して補正した。
	下水道施設	揺れによる管渠の被害で、直ちに流下機能支障が生じる箇所は限定的。このため、処理区毎に終末処理場ならびに中継ポンプ場地点における震度を整理し、停電状況を加味して定性的に使用制限等を想定。
	ガス供給施設	都市ガス復旧過程は各事業者に算定を依頼した。阪神・淡路大震災後の復旧体制の整備や県内の施設状況を一定レベルで考慮。 LP ガス復旧過程は、販売店等による顧客宅の点検復旧作業を仮定して想定。
	通信施設	固定電話・インターネット(有線)は、電力供給・被害に依存するものとして想定。 携帯電話等も含め、輻輳による通信規制影響については定性的に考察。
交通施設	道路施設	東日本大震災の震度別の被害率に液状化、地形影響を加味して作成した被害関数により被害箇所数等を推計。また、緊急輸送道路啓閉、孤立集落発生の可能性について考察。
	鉄道施設	東日本大震災の震度別の被害率により被害箇所数等を推計。
その他	避難者	住家の全半壊・焼失棟数、断水人口を基に推計。 ■避難者＝(全壊棟数+0.13×半壊棟数)×1棟当り人員+断水人口×生活困窮度 地震後経過時間毎に避難所・避難所以外での生活者数を推計。

2) 県域の主要被害想定結果

表 5 に、前記の手法により算定した今回想定地震ケース別の被害数量の一覧を示す。

表 6 に、内陸活断層地震による時系列変化を含む主要被害数量の一覧を示す。

表 7 に、南海トラフ巨大地震による時系列変化を含む主要被害数量の一覧を示す。

また、表 8－1－1～表 8－1 2－2 に、各地震ケースの県域の主要被害分布状況等を示す。

表 5 地震ケース別の被害数量の一覧

地震	ケース (震源位置等)	発生時刻	建物被害				人的被害			地震直後の 停電率	地震直後の 断水率	一週間後の 全避難者数※2	表8の 掲載ページ
			全壊棟数	半壊棟数	全焼棟数 (平均風速)	全焼棟数 (風速8m/sec)	死者数	負傷者数	重傷者数 (負傷者数の内数)				
琵琶湖西岸断層帯地震 (大津・南部・高島地域を中心とした甚大被害)	case1	夏正午	27,650	69,584	55	55	1,002	10,290	847	58%	44%	200,445	P7～P8
		冬夕方			321	2,731	1,502	13,199	1,103				
		冬深夜			21	21	1,579	16,267	1,338				
	case2	夏正午	38,504	83,856	76	76	1,384	13,515	1,117	63%	49%	249,534	P9～P10
		冬夕方			592	3,818	1,992	17,199	1,439				
		冬深夜			32	32	2,182	21,039	1,742				
花折断層帯地震 (大津・南部地域を中心とした大被害)	case2	夏正午	18,181	53,274	33	33	596	6,614	541	47%	34%	139,894	P11～P12
		冬夕方			215	1,655	822	8,537	702				
		冬深夜			16	16	940	10,380	849				
	case3	夏正午	11,670	41,531	20	20	375	4,588	372	43%	28%	99,275	P13～P14
		冬夕方			123	1,013	499	5,935	483				
		冬深夜			5	5	591	7,296	592				
木津川断層帯地震 (甲賀地域を中心とした大被害)	case1	夏正午	5,734	14,540	14	14	254	2,133	179	26%	10%	42,672	P15～P16
		冬夕方			58	700	346	2,727	230				
		冬深夜			0	0	368	3,392	282				
	case3	夏正午	2,360	10,884	5	5	93	1,232	99	24%	9%	27,171	P17～P18
		冬夕方			65	257	129	1,613	131				
		冬深夜			0	0	132	1,974	158				
鈴鹿西縁断層帯地震 (湖東・東近江地域を中心とした大被害)	case1	夏正午	11,250	28,293	21	21	406	4,150	342	37%	18%	75,285	P19～P20
		冬夕方			54	1,081	587	5,330	444				
		冬深夜			5	5	640	6,558	540				
	case2	夏正午	10,804	31,173	21	21	427	4,529	372	40%	21%	81,703	P21～P22
		冬夕方			71	1,089	616	5,754	478				
		冬深夜			5	5	641	7,204	588				
柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯地震 (湖北・湖東地域を中心とした大被害)	case1	夏正午	10,412	24,940	17	17	379	3,631	301	29%	14%	71,710	P23～P24
		冬夕方			101	864	484	4,714	390				
		冬深夜			5	5	597	5,788	479				
	case2	夏正午	9,803	24,836	16	16	366	3,464	287	28%	15%	74,940	P25～P26
		冬夕方			65	796	469	4,624	382				
		冬深夜			0	0	572	5,741	473				
南海トラフ巨大地震（基本ケース） (滋賀県域でも被害、東海・西日本一帯で甚大被害)	基本ケース	夏正午	2,399	22,183	0	0	10	803	61	81%	40%	30,729	P27～P28
		冬夕方			11	11	11	1,014	77				
		冬深夜			0	0	12	1,256	95				
南海トラフ巨大地震（陸側ケース） (滋賀県域でも大被害、東海・西日本一帯で甚大被害)	陸側ケース	夏正午	11,017	74,084	37	37	300	6,702	525	88%	52%(68%)※1	158,550	P29～30
		冬夕方			354	1,820	385	8,448	662				
		冬深夜			11	11	474	10,408	816				

※1 南海トラフ巨大地震（陸側ケース）については、地震発生から1日後の値を（ ）書きで併記している（停電継続影響により1日後に最大となる）。

※2 全避難者数とは、避難所生活者（自宅の損傷がなくとも断水等により炊事が困難となり避難所で食料等を受け取り自宅で就寝する者を含む）、知人・親戚宅等への避難者の合計人数。（建物被害が最大となる冬夕方・風速 8m/sec の条件で算定）

なお、1週間後の全避難者の約半数が避難所生活者となることを見込んでいる。

※3 本表の各数値は、計算結果を整数位で掲載しているが、その精度が確保されているという意味ではない。（以下の各表も同様）

表6 内陸活断層地震による主要被害数量の一覧

				琵琶湖西岸断層帯		(果前田想定) 琵琶湖西岸断層帯			花折断層帯		本津川断層帯		鈴鹿西縁断層帯		柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯			
				case1	case2	case1	case2	Case3	case2	case3	case1	case3	case1	case2	case1	case2		
マグニチュード (Mw: モーメント・コエファシエント)				7.8	7.8	7.8	7.8	7.8	7.4	7.4	7.3	7.3	7.6	7.6	7.8	7.8		
市町区域内の想定最大震度				7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7		
震度6強以上の区域を想定した市町 (震度6強以上の区域内居住人口の多い順)				大津市 草津市 守山市 栗東市 高島市 野洲市 近江八幡市 湖南市	大津市 草津市 栗東市 守山市 高島市 野洲市 近江八幡市 湖南市	-	-	-	大津市 栗東市 守山市 野洲市	大津市 草津市 野洲市	甲賀市 湖南市	甲賀市 湖南市	彦根市 米原市 東近江市 多賀町 甲良町 豊郷町 甲賀市 愛荘町 日野町 長浜市	彦根市 東近江市 米原市 愛荘町 多賀町 甲良町 日野町 豊郷町 多賀町 甲賀市 長浜市	長浜市 米原市	長浜市 彦根市 米原市 高島市		
震度6強以上の区域内居住人口				432,320	539,620				280,020	172,990	62,020	29,420	117,290	96,740	113,000	119,610		
被害種別・項目・時期				単位	対象母数													
建物被害	全壊棟数(住家は戸数を棟数として算定)		(棟)	全棟(戸)数	27,650	38,504	45,994	43,463	37,976	18,181	11,670	5,734	2,360	11,250	10,804	10,412	9,803	
	半壊棟数(住家は戸数を棟数として算定)			565,824	69,584	83,856	54,078	53,711	51,689	53,274	41,531	14,540	10,884	28,293	31,173	24,940	24,836	
	全焼棟数	夏 正午 風速8m/sec	棟	全棟数	55	76	(炎上件数)93	(炎上件数)87	(炎上件数)73	33	20	14	5	21	21	17	16	
		冬 夕方 風速8m/sec		2,731	3,818	(炎上件数)93	(炎上件数)87	(炎上件数)73	1,655	1,013	700	257	1,081	1,089	864	796		
		冬 深夜 風速8m/sec		528,453	21	32	(炎上件数)39	(炎上件数)37	(炎上件数)30	16	5	0	0	5	5	0	0	
	全壊・全焼棟数合計		棟	全棟(戸)数	27,705	38,580				18,215	11,690	5,748	2,365	11,272	10,826	10,429	9,819	
冬 夕方 風速8m/sec	565,824	30,381		42,322				19,836	12,682	6,434	2,616	12,331	11,893	11,277	10,599			
人的被害	死者数 ()内は家具転倒等	人	居住人口	夏 正午 風速8m/sec	27,671	38,536				18,198	11,675	5,734	2,360	11,255	10,810	10,418	9,803	
				冬 夕方 風速8m/sec														
				冬 深夜 風速8m/sec														
	負傷者数 ()内は家具転倒等	夏 正午 風速8m/sec	1,002 (136)	1,384 (190)	857	851	676	596 (81)	375 (57)	254 (53)	93 (15)	406 (53)	427 (56)	379 (49)	366 (48)			
		冬 夕方 風速8m/sec	1,502 (136)	1,992 (190)	898	848	653	822 (81)	499 (57)	346 (53)	129 (15)	587 (53)	616 (56)	484 (49)	469 (48)			
		冬 深夜 風速8m/sec	1,579 (167)	2,182 (231)	1,274	1,173	885	940 (98)	591 (70)	368 (64)	132 (18)	640 (66)	641 (68)	597 (60)	572 (58)			
ライフライン機能支障	電力供給施設 ：停電軒数(停電率)	停電口数	軒(%)	契約口数	10,290 (2,173)	13,515 (2,513)	7,941	7,389	7,604	6,614 (1,522)	4,588 (1,113)	2,133 (678)	1,232 (200)	4,150 (681)	4,529 (705)	3,631 (622)	3,464 (610)	
					13,199 (2,173)	17,199 (2,513)	7,635	7,352	7,402	8,537 (1,522)	5,935 (1,113)	2,727 (678)	1,613 (200)	5,330 (681)	5,754 (705)	4,714 (622)	4,624 (610)	
					冬 深夜 風速8m/sec	16,267 (2,650)	21,039 (3,065)	10,166	9,907	9,947	10,380 (1,855)	7,296 (1,358)	3,392 (828)	1,974 (243)	6,558 (831)	7,204 (859)	5,788 (758)	5,741 (744)
		断水人口	人(%)	給水人口 (=居住人口) ：施設評価の対 象としていない 専用水道分を含 むものとする	540,372 (58%)	583,990 (63%)				440,234 (47%)	397,038 (43%)	241,185 (26%)	227,986 (24%)	345,760 (37%)	370,528 (40%)	267,546 (29%)	258,186 (28%)	
					1日後	235,760 (25%)	270,952 (29%)				170,510 (18%)	131,154 (14%)	60,464 (6%)	48,861 (5%)	109,585 (12%)	119,584 (13%)	92,576 (10%)	97,489 (10%)
					2日後	129,386 (14%)	158,970 (17%)				85,119 (9%)	58,549 (6%)	25,635 (3%)	16,963 (2%)	50,589 (5%)	53,202 (6%)	44,685 (5%)	48,672 (5%)
	上水道施設 ：断水人口(断水率)	断水人口	人(%)	給水人口 (=居住人口) ：施設評価の対 象としていない 専用水道分を含 むものとする	75,823 (8%)	98,075 (11%)				46,407 (5%)	29,153 (3%)	13,972 (1%)	7,539 (1%)	27,261 (3%)	27,383 (3%)	24,895 (3%)	27,171 (3%)	
					1週間後	2,513 (0%)	3,930 (0%)				1,220 (0%)	523 (0%)	150 (0%)	49 (0%)	72 (0%)	71 (0%)	25 (0%)	31 (0%)
					地震直後	622,031 (44%)	697,024 (49%)				486,265 (34%)	395,610 (28%)	146,783 (10%)	128,989 (9%)	260,404 (18%)	298,552 (21%)	203,093 (14%)	214,612 (15%)
		1日後	606,563 (43%)	682,427 (48%)				470,187 (33%)	378,203 (27%)	139,827 (10%)	121,589 (9%)	249,795 (18%)	286,122 (20%)	196,271 (14%)	208,103 (15%)			
			2日後	584,613 (41%)	661,668 (47%)				448,767 (32%)	356,459 (25%)	131,572 (9%)	112,758 (8%)	236,936 (17%)	270,769 (19%)	187,629 (13%)	199,535 (14%)		
			3日後	559,923 (40%)	637,978 (45%)				425,585 (30%)	333,814 (24%)	123,136 (9%)	103,818 (7%)	223,621 (16%)	254,769 (18%)	178,437 (13%)	190,250 (13%)		
避難者	避難所生活者※ 下段：(全避難者※)	人	居住人口	1週間後	454,982 (32%)	533,221 (38%)				332,616 (24%)	248,662 (18%)	92,310 (7%)	72,268 (5%)	173,248 (12%)	193,969 (14%)	142,014 (10%)	152,635 (11%)	
				1ヶ月後	98,493 (7%)	129,394 (9%)				60,450 (4%)	36,794 (3%)	18,727 (1%)	9,405 (1%)	35,376 (3%)	34,736 (2%)	31,600 (2%)	34,506 (2%)	
				2ヶ月後	10,259 (1%)	14,502 (1%)				5,394 (0%)	2,757 (0%)	2,192 (0%)	714 (0%)	4,145 (0%)	3,729 (0%)	3,665 (0%)	4,165 (0%)	
				3ヶ月後	969 (0%)	1,416 (0%)				453 (0%)	205 (0%)	234 (0%)	55 (0%)	471 (0%)	427 (0%)	385 (0%)	464 (0%)	
				1日後	52,019 (86,699)	69,737 (116,229)				34,044 (56,740)	22,266 (37,110)	11,757 (19,595)	5,462 (9,104)	19,184 (31,973)	19,927 (33,211)	21,724 (36,206)	22,068 (36,781)	
3日後	80,219 (145,852)	99,796 (181,447)	82,889口(→9時)	80,630口(→9時)	72,947口(→9時)	56,565 (102,846)	40,809 (74,198)	17,896 (32,537)	11,519 (20,943)	30,761 (55,929)	33,498 (60,906)	29,692 (53,985)	30,780 (55,964)					
1週間後	100,222 (200,445)	124,767 (249,534)				69,947 (139,894)	49,638 (99,275)	21,336 (42,672)	13,585 (27,171)	37,643 (75,285)	40,852 (81,703)	35,855 (71,710)	37,470 (74,940)					
1か月後	29,194 (97,313)	38,423 (128,077)				18,024 (60,079)	11,048 (36,825)	5,644 (18,814)	2,813 (9,375)	10,511 (35,036)	10,375 (34,583)	9,618 (32,060)	10,420 (34,733)					

※ 避難所生活者とは、自宅での炊事が困難なこと等により、避難所で飲料水・食料を受け取り自宅で就寝する者を含む人数

※ 全避難者とは、知人・親戚宅もしくは賃貸住宅等での避難生活者を含む人数

表7 南海トラフ巨大地震による主要被害数量の一覧

				南海トラフ巨大地震														
				基本ケース	(国2012年公表) 基本ケース	陰側ケース	(国2012年公表) 陰側ケース											
マグニチュード (Mw : モーメントマグニチュード)				(9.0)	(9.0)	(9.0)	(9.0)											
市町区域内の想定最大震度				6弱	6弱	6強	6強											
震度6強以上の区域を想定した市町 (震度6強以上の区域内居住人口の多い順)				— 震度6弱は 高島市 甲良町 多賀町 以外の市町	— 震度6弱は 潮南市 高島市 日野町 豊郷町 甲良町 多賀町 以外の市町	近江八幡市 野洲市 大津市 彦根市 草津市 甲賀市 米原市 竜王町 東近江市 日野町 湖南市 守山市	近江八幡市 野洲市 大津市 彦根市 草津市 米原市 竜王町 東近江市											
震度6強以上の区域内居住人口				—	—	81,300	72,850											
被害種別・項目・時期			単位	対象母数														
建物被害	全壊棟数(住家は戸数を棟数として算定)		(棟)	全棟(戸)数	2,399	2,500	11,017	10,000										
	半壊棟数(住家は戸数を棟数として算定)			565,824	22,183	(公表無し)	74,084	(公表無し)										
	全焼棟数	夏 正午 風速8m/sec	棟	全棟数	0	10	37	50										
		冬 夕方 風速8m/sec			11	50	1,820	2,700										
		冬 深夜 風速8m/sec			528,453	0	10	11	50									
	全壊・全焼棟数合計	夏 正午 風速8m/sec	棟	全棟(戸)数	2,399	2,600	11,053	10,000										
		冬 夕方 風速8m/sec			2,409	2,600	12,837	13,000										
		冬 深夜 風速8m/sec			565,824	2,399	2,600	11,027	10,000									
	人的被害	死者数 ()内は家具転倒等	夏 正午 風速8m/sec	人	居住人口	10	(10)	10	(10)	300	(52)	300	(50)					
			冬 夕方 風速8m/sec			11	(10)	10	(10)	385	(52)	400	(50)					
冬 深夜 風速8m/sec			12			(11)	10	(10)	474	(64)	500	(50)						
冬 深夜 風速8m/sec			803			(239)	1,000	(400)	6,702	(1,075)	6,600	(1,100)						
負傷者数 ()内は家具転倒等		夏 正午 風速8m/sec	1,014			(239)	1,200	(400)	8,448	(1,075)	8,000	(1,100)						
		冬 夕方 風速8m/sec	1,256			(292)	1,400	(500)	10,408	(1,312)	9,800	(1,400)						
		冬 深夜 風速8m/sec	1,410,777															
		冬 深夜 風速8m/sec	1,410,777															
ライフライン機能支障	電力供給施設 : 停電軒数(停電率)	停電口数	地震直後	軒(%)	契約口数	751,769	(81%)	830,000	(89%)	824,887	(88%)	830,000	(89%)					
			1日後			332,253	(36%)	130,000	(14%)	608,428	(65%)	130,000	(14%)					
			2日後			70,017	(8%)			406,013	(44%)							
			3日後			4,312	(0%)			245,129	(26%)							
			1週間後			932,134	0	(0%)	—	(-%)	2,460	(0%)	800	(1%)				
	上水道施設 : 断水人口(断水率)	断水人口	地震直後	人(%)	給水人口 (=居住人口) : 施設評価の対象としていない 専用水道分を含むものとする	559,619	(40%)	950,000	(71%)	733,370	(52%)	1,100,000	(82%)					
			1日後			542,123	(38%)	220,000	(16%)	955,426	(68%)	700,000	(52%)					
			2日後			223,463	(16%)			862,105	(61%)							
			3日後			125,911	(9%)			729,937	(52%)							
			1週間後			70,924	(5%)	110,000	(8%)	383,220	(27%)	460,000	(34%)					
			1ヶ月後			2,995	(0%)	17,000	(1%)	42,430	(3%)	72,000	(5%)					
			2ヶ月後			62	(0%)			2,176	(0%)							
			3ヶ月後			1,410,777	2	(0%)		111	(0%)							
			避難者			避難所生活者※ 下段:(全避難者※)	人	1日後	居住人口	1,410,777	7,798	(12,997)	6,200	(10,000)	26,836	(44,726)	25,000	(42,000)
								3日後			14,911	(27,112)			75,416	(137,120)		
								1週間後			15,364	(30,729)	19,000	(38,000)	79,275	(158,550)	78,000	(160,000)
1ヶ月後	1,198	(3,995)		7,600	(25,000)			19,954			(66,512)	31,000	(100,000)					
1ヶ月後	1,198	(3,995)		7,600	(25,000)			19,954			(66,512)	31,000	(100,000)					

※ 避難所生活者とは、自宅での炊事が困難なこと等により、避難所で飲料水・食料を受け取り自宅で就寝する者を含む人数

※ 全避難者とは、知人・親戚宅もしくは賃貸住宅等での避難生活者を含む人数